

令和 3 年 5 月 28 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H00912

研究課題名(和文) 海外における平安文学及び多言語翻訳に関する研究

研究課題名(英文) Research on Heian literature and multilingual translation abroad

研究代表者

伊藤 鉄也 (ITO, Tetsuya)

大阪大学・国際教育交流センター・招へい教授

研究者番号：10232456

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 30,100,000円

研究成果の概要(和文)：海外の研究情報と翻訳本を収集して検討することによって、膨大な研究成果が得られた。これらは、『海外平安文学研究ジャーナル Vol.7+8』(電子版：ISSN/2188-8035)と、『海外平安文学研究ジャーナル《中国編2019》』に編集して公開した。
『源氏物語』の世界各国での翻訳に関しては、41種類の言語で翻訳されていることも確認できた。これらの研究成果は、ホームページ[海外平安文学情報](<http://genjiito.org>)で公開し、着実に情報の更新を続けている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

平安文学に関する海外での研究情報や翻訳資料の総合的な調査と研究の成果を、「海外における平安文学の受容研究」として公開するものである。多言語による平安文学の翻訳をテーマとする、研究基盤の整備もおこなった。情報公開と発信基地の役割を担うものとなるように、日々情報の更新を重ねているところである。
今後は、ホームページ「海外平安文学情報」と電子版『海外平安文学研究ジャーナル』が有機的に活用されることが期待できる。NPO法人「源氏物語電子資料館」の支援を受ける中で、本研究テーマは継続的に深めていくことになる。

研究成果の概要(英文)：A huge amount of research results were obtained by collecting and examining overseas research information and translated books. These were edited and published in "Overseas Heian Literature Research Journal Vol.7 + 8" (electronic version: ISSN / 2188-8035) and "Overseas Heian Literature Research Journal << China Edition 2019 >>".
Regarding the translation of "The tale of Genji" around the world, it was confirmed that it was translated in 41 different languages. These research results are published on the homepage [Overseas Heian Literature Information] (<http://genjiito.org>), and the information is being updated steadily.

研究分野：平安文学

キーワード：平安文学 多言語翻訳 日本文化 翻訳史 データベース

1. 研究開始当初の背景

平安文学の研究は、日本国内外において精力的に行われている。しかし、海外の研究に関する情報を研究者間で共有できていない。また海外においても、研究状況の把握が不十分である。本課題は、この研究基盤の整備を共通の問題意識として掲げ、多角的な視点で取り組むものである。(1)本課題の申請までに研究代表者である伊藤鉄也は、科研(基盤研究A)「海外における源氏物語を中心とした平安文学及び各国語翻訳に関する総合的調査研究」(課題番号:25244012)において、平成25年度から28年度までの4年間にわたって精力的に取り組んできた。その成果が当初の予想以上に得られたことから、引き続き課題を掲げて取り組むことにした。ただし、本申請課題では、日本文学の中でも『源氏物語』に限らず平安文学に拡大して取り組むものである。

(2)海外における日本文学研究の実状と概要は、容易には知ることができない。諸外国の数多くの研究者が、日本文学に関する研究成果を積極的に情報として発信している。しかし、インターネットでその成果が確認できるとはいえ、まだ情報源に偏りがある。

本研究代表者である伊藤は、文献のデータベース化と海外との共同研究に関して、10年以上にわたって科学研究費補助金(萌芽的研究・基盤研究(B)・基盤研究(A))による研究支援を受けて、多くの成果を公開・公表してきた。本申請課題は、それを拡充した上で総合的に整理し、さらなる共同研究のための基盤構築をめざすものである。

2. 研究の目的

本申請課題は、日本で平安時代の文学を研究する者が中心となり、海外の研究者と協力して実現する。海外での平安文学における研究情報の総合的な調査を踏まえ、その日本古典文学の受容と研究の歴史を総整理することをめざす。また、江戸時代のダイジェスト版『源氏物語』である『十帖源氏』の多国語翻訳をとおして、日本文化が変容して海外に伝えられていく様子と文化理解についての共同研究も展開する。こうした活動と成果は、情報交換を目的とするホームページ「海外平安文学情報」(<http://genjiito.org>)と電子版『海外平安文学研究ジャーナル』(ISSN:2188-8035)を媒介として、研究者間の交流の場へと展開していくものに育て上げる。

3. 研究の方法

本課題では、世界各国における日本古典文学に関する実態調査(研究機関・研究者・研究成果・翻訳書等)に基づき、受容と研究の歴史を総合的に整理する。それと共に、『十帖源氏』の多言語翻訳と研究を踏まえて、日本文化の海外における変容を共同研究のテーマとする。これらは、インターネットを活用したコラボレーションと、毎年実施する国際日本文学研究交流集会で確認して推進していく。

具体的には、調査・研究・翻訳・公開に関する活動を通して、情報交換をする中で研究成果を集約していくことになる。

4. 研究成果

2017年度は、研究代表者伊藤がこれまでに調査し収集した、世界各国語に翻訳された日本古典文学作品の翻訳書を、大阪観光大学図書館で全6回にわたって公開展示した。これは、科研費による研究成果を広く公開したものである。

国際交流に関しては、「翻訳家の目を見た日本古典文学の特徴」(2017年11月1日(金) 広島大学ライブラリーホール)に、研究協力者として情報収集と整理を担当している学生9名を引率して参加した。研究代表者である伊藤はシンポジウムの司会進行を担当し、併せて『源氏物語』をロシア語に翻訳されたタチアナ・L・ソコロワ・デリューシナ先生や広島大学の学生との交流も果たした。

また、インドとミャンマーの2カ国へ、資料の調査と収集及び研究に行った。インドでは「第9回 インド国際日本文学研究集会」の打ち合わせを、国際交流基金ニューデリー事務所とハイデラバード英語外国語大学で実施した。そのため、前年度にホームページ上に公開した情報を再度整理して印刷版とした『平安文学研究ジャーナル《インド編 2016》』(伊藤鉄也編著、250頁、2018(平成30)年2月)を持参して配布した。ウルドゥー語やテルグ語など多数の辞書も入手した。ミャンマーでは、これまではないとされていた多くの日本文学・文化関連の翻訳書を確認できた。中でも、『源氏物語』の多国語翻訳においては、34種類目の言語となるビルマ語訳『源氏物語』を発見したことは、大きな収穫であった。このビルマ語訳『源氏物語』については、翻訳者と2度の対談を実施した。日本語への訳し戻しも含めて、日本文化の伝流と変容をテーマとする本科研において、あらためて取り組むことになる。

日頃の研究成果を報告し討論する研究会は、6月に大阪で、1月に東京で実施した。その詳細は、『海外平安文学研究ジャーナル Vol.7』(2021年発行)で報告した。

2018年度に出向いた国は、ペルー・アメリカ・ミャンマー・ルーマニアの4カ国であった。いずれも先生方や現地の研究者との有益な面談に加え、多彩な研究情報や資料と、情報として伝わ

っていなかった多くの翻訳本を入手することができた。特に、ルーマニア語訳『源氏物語』の情報と共に翻訳者との対談も実現したことは大きな成果となった。これらは、年度末に発行した報告書である『平安文学翻訳本集成 2018』に収録した。

また、翻訳書籍に関する展示も、昨年度に引き続き大阪観光大学の図書館で開催した。研究代表者が収集した各国語に翻訳された古典文学作品について、解題を付して展示を行ったものである。多くの学生、教職員の目に留まるようにした。

各国語訳『源氏物語』の訳し戻しは、世界35言語に翻訳された『源氏物語』を、その言語を母語とする者(母語話者)と母語としない者(非母語話者)により、日本語への訳し戻しを行っている。2018年度は、主にビルマ語訳『源氏物語』(ケイン・キン・インジン著)の訳し戻し作業を行い、日本文化の変容を考察する基礎資料を作成した。このことは、研究会に翻訳者ご本人をお呼びし、ディスカッションをする中で翻訳について考えた。

懸案のホームページ「海外平安文学情報」(<http://genjiito.org>)は、年度末に無事に完成し公開することができた。これは、前回の科研で作成した「海外源氏情報」をさらに発展させた内容のホームページである。

2019年度より、研究代表者伊藤の基盤研究機関が、大阪観光大学から大阪大学に移った。

国際研究交流は、中国広州で「2019年度中日比較文学国際シンポジウムおよび広東外語外貿大学日本語言語文化学院大学院生フォーラム」を主催者として実施した。講演・研究発表・ディスカッションを通して、現地の研究者から多くの研究情報や資料及び情報として伝わっていなかった多くの翻訳本を入手することができた。それらは、すべて本科研のホームページ[海外平安文学情報](<http://genjiito.org>)に収載し公開している。

各国語訳『源氏物語』は、世界38言語に翻訳されている。その『源氏物語』を、各言語を母語とする者(母語話者)と母語としない者(非母語話者)により、日本語への訳し戻しを行っている。今年度は、ロシア語訳『源氏物語』(タチアーナ・L.ソコロワ・デリューシナ著)と、ルーマニア語訳『源氏物語』(アンジェラ・ホンドゥル著)の訳し戻し作業を行い、日本文化の変容を考察する基礎資料を作成した。これを元にして、共同討議を行うことになる。『十帖源氏』の翻訳は、ロシア語・ハンガリー語・日本点字の3種類を手がけた。特に日本点字の翻訳により、視覚障害者も平安文学作品を読むことへの道が拓けたと言えよう。

本年度の新たな取り組みとして、研究成果を広く公開する目的で、出張授業「海外で読まれている平安文学 翻訳本の表紙を楽しむ -」を愛知文教大学で実施した。初めて見て触る世界各国の翻訳本の実態を知った多くの学生は、日本文学の世界的な拡がりを実感したようである。

第13回「海外における平安文学」研究会では、研究協力者と共に成果の報告と討議などを行った。その内容はすべて、ホームページ[海外平安文学情報](<http://genjiito.org>)に公開している。

2020年度は、本科研の最終年度である。本年度は、新型コロナウイルスの世界中への感染拡大に伴い、海外の研究情報と翻訳本を収集する活動と現地の大学及び国際交流基金とのコラボレーションとしての国際研究交流を意図した国際日本文学研究集会は、渡航が不可能であったためにまったくできなかった。そこで、海外の研究協力者及びインターネットを活用した情報収集とその整理により、現在の研究状況の把握と資料収集、そして多言語翻訳の進展を中心とする研究に切り替えた。

これにより、多彩な研究情報や資料のみならず、情報として伝わっていなかった多くの翻訳本を入手することができた。これらは、年度末に発行した報告書である『海外平安文学研究ジャーナル Vol.8』(ISSN番号 2188-8035)で報告している。また、第14回「海外における平安文学」研究会を開催したことに加え、報告書として『海外平安文学研究ジャーナル《中国編2019》』を刊行した。

各国語訳『源氏物語』の訳し戻しは、世界41言語に翻訳された『源氏物語』の内、今年度はウクライナ語訳『源氏物語』と日本点字訳『十帖源氏』などを作成した。

海外調査と情報収集については、ベトナム、中国、ロシア、スペインにおける日本文学、日本語に関するデータの成果があった。また、平安文学の翻訳書籍の解題は、ロシア語とスペイン語を作成した。

本科研の研究成果を公開しているホームページ[海外平安文学情報](<http://genjiito.org>)は、順調に情報の更新ができた。翻訳史年表の統合と改訂がその大きな成果である。今後は、このホームページを情報公開の窓口として、これまでの研究成果を広く共有しながら本科研のテーマに関する資料と情報が行き交う拠点として育てる。このことは、NPO法人 源氏物語電子資料館のバックアップを受ける中で追求し、深めていくことになる。

なお、最終年の2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大のため、諸外国の現地調査と国際日本文学研究交流集会は、予定通りには実施できなかったことを付記しておく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 浅川 慎子	4. 巻 7
2. 論文標題 AIによる翻訳から古典文学の翻訳を考える 『十帖源氏』と『盛衰記繪抄』を例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 平安文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 129 ~ 152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 土田久美子	4. 巻 7
2. 論文標題 ロシア語訳『源氏物語』初訳と改訳の比較考 - 移り詞・和歌・「もののはれ」を中心に -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 平安文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 52 ~ 74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 フィットレル・アーロン	4. 巻 7
2. 論文標題 『更級日記』ハンガリー語訳注について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 平安文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 75 ~ 99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 フィットレル・アーロン	4. 巻 8
2. 論文標題 『万葉集』のドイツ語訳について - 1930年代以降の翻訳を中心に -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 平安文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 11 ~ 57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 庄ショウ淳	4. 巻 7
2. 論文標題 『とりかへばや物語』の中国語訳の試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 平安文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 32～51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 庄ショウ淳	4. 巻 中国編
2. 論文標題 林文月訳『源氏物語』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 平安文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 63～78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 須藤圭	4. 巻 中国編
2. 論文標題 『源氏物語』以後の文学をどのように翻訳するか 中古に受容された『源氏物語』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 平安文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 21～42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小川陽子	4. 巻 中国編
2. 論文標題 中世に受容された『源氏物語』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 平安文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 43～62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浅川 槿子	4. 巻 8
2. 論文標題 翻訳された「十二単」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 平安文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 108～134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤 鉄也	4. 巻 7
2. 論文標題 海外調査研究拾遺	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 平安文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 155～237
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 モハンマド・モインウッディン	4. 巻 7
2. 論文標題 平安文化をインドにどう伝えるか 『源氏物語』 桐壺 のウルドゥー語訳を検討する	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 平安文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 11～31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 伊藤 鉄也
2. 発表標題 世界中で読みつがれる 平安文学
3. 学会等名 中日比較文学シンポジウム (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 庄ショウ淳
2. 発表標題 林文月訳『源氏物語』
3. 学会等名 中日比較文学シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 須藤圭
2. 発表標題 中古に受容された『源氏物語』
3. 学会等名 中日比較文学シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川陽子
2. 発表標題 中世に受容された『源氏物語』
3. 学会等名 中日比較文学シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 土田久美子
2. 発表標題 ロシア語訳『源氏物語』 初訳と改訳の比較考 移り詞・和歌・「もののあはれ」を中心に
3. 学会等名 日本比較文学会 第55回 東京支部大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 伊藤鉄也・池野陽香・門宗一郎・田中良	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大阪観光大学	5. 総ページ数 193
3. 書名 『平安文学翻訳本集成《2018》』	

1. 著者名 伊藤鉄也	4. 発行年 2018年
2. 出版社 大阪観光大学	5. 総ページ数 250
3. 書名 『海外平安文学研究ジャーナル《インド編 2016》』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>[海外平安文学情報] http://genjiito.org</p> <p>「海外源氏情報」 http://genjiito.org</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	大谷 晋也 (OTANI Sinya) (50294137)	大阪大学・国際教育交流センター・准教授 (14401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	谷口 裕久 (TANIGUCHI Yasuhisa) (70288695)	大阪観光大学・国際交流学部・教授 (34434)	
研究分担者	佐久間 留理子 (SAKUMA Ruriko) (60280658)	大阪観光大学・観光学部・教授 (34434)	
研究分担者	王 静 (OH SEI) (30758529)	大阪観光大学・観光学部・准教授 (34434)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 中日比較文学シンポジウム	開催年 2019年～2019年
------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
中国	広東外語外貿大学		